

## 研修カリキュラム

### 研修の特徴と内容

#### 【特徴】

研修指導医は日本糖尿病学会研修指導医の認定を受けており、当院は認定教育施設である。糖尿病治療とりわけ強化インスリン療法の経験が豊富であり、糖尿病合併妊婦や新生児などの管理も前勤務先の兵庫医科大学糖尿病科では産科・小児科と共同で常時行っており、芦屋病院でも産科・小児科と連携をとりながら診療を行っている。種々の糖尿病性合併症についても、循環器内科、神経内科、眼科、外科、整形外科など院内各科との連携が密であり、重症例にも対応している。糖尿病の臨床研修は、指導医、上級医とともに二人ないし三人のチームを組んで患者の診断治療に当たっており、チーム診療を行っている。定期的外来通院中の糖尿病患者数は 557 例、年間入院患者数 171 例に加え、周術期管理など外科を初めとする他診療科との共同観察による入院症例が年間 50 症例以上を数えており、研修期間中にはチェックリスト(別添)に記したカリキュラム内容を、糖尿病の診断からインスリン治療を主とした治療、合併症の評価、糖尿病教室を含めた患者指導までマスターできるようにスタッフ一丸となって指導にあたっている。

#### 【内容】

##### ① 一般目標

入院患者の糖尿病の診断からインスリン治療を主とした治療、合併症の評価が一人で行えるようにする。研修期間中には糖尿病教室を含めた患者指導まで実施できるよう、到達目標を設定している。

##### ② 到達目標

###### 1年目

1. 糖尿病の診断基準および病型分類に関する学会勧告の内容を理解し、臨床応用できる。
2. 糖尿病の診断に必要な検査を実習し、自分で出来るようになる。
3. 重症度の診断(境界型からケトアシドーシス→昏睡に至るまで)ができる。
4. 個々の患者に適した治療目標の設定が出来る。
5. 食事療法の理論と実際の知識を習得、実施し、その効果が評価できる。
6. 運動療法の理論と実際の知識を習得、実施し、その効果が評価できる。
7. 経口血糖降下療法の理論と実際の知識を習得、実施し、その効果が評価できる。
8. インスリン療法(1型・2型・その他に区別して)の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる。
9. 糖尿病前昏睡～昏睡患者の治療の理論と実際の知識を習得、実施し、その効果が評価できる。

###### 2年目

1. 合併症の有無と、合併症を有する場合の進行度の診断が自分で出来る。
2. 合併症を伴う糖尿病の治療の理論と実際の知識を習得、実施しその効果が評価できる。

3. 糖尿病妊婦の管理を習得、実施しその効果が評価できる。
4. 低血糖に関する正しい知識と対応を体得する。
5. 個人・集団指導を体験し、カリキュラムを作り、実施、評価できる。

#### 3年目

1. 学会の食品交換表の利用方法の指導、運動処方作成、インスリン自己注射および血糖自己測定指導が出来る。
2. 日本糖尿病協会や個々の施設等の患者グループの教育活動に参加し、それらの意義を理解する。
3. 患者指導チームのあり方、質の向上方法についてのカンファレンス参加を通じて正しい認識を持つ。

#### ③研修内容

- ① 1年次は糖尿病診療チームの一員として、各自2～5名の病棟患者を受け持ち、指導医のもと診療に参加するほか、臨床実習学生を指導する場合がある。
- ② そのほか、1年次には指導医等の外来診療に補助員として参加し、早期・軽症症例の診療計画作成に参画する。
- ③ 2年次はチームの中級医として、各自3～8名の患者を受け持ちながら、1年次医師、臨床実習学生を指導する。
- ④ 3年次はチームのリーダーとして、指導医の管轄の下、1年次、2年次の医師とともに診療計画を作成、実践する。
- ④ さらに2年次以降は頸動脈エコー等の合併症に関する諸検査に参加し、実践する。

#### その他 症例検討会、ジャーナルクラブ、糖尿病教室

##### ① 症例検討会

基本的な症例のプレゼンテーション、検討法を修得する。

##### ② ジャーナルクラブ

糖尿病科スタッフによる文献紹介、研究成果の検討に参加する。

##### ③ 糖尿病教室

糖尿病科スタッフによる患者さんやその家族を対象とした教室に主体的に参加し、糖尿病内科の医師として身につけた知識を、いかに効果的に、わかりやすく患者さんへ伝達するかを実践し、病状説明等の診療にも役立てる。

#### ④ 教育に関するその他の行事

##### <週間スケジュール>

月～金 8:30～8:45 内科カンファレンス

火 15:00～16:00 回診

水 17:00～18:00 医局会、ジャーナルクラブ、症例検討会（病理検討会を含む）

金 13:30～15:00 糖尿病教室（第一金曜）

また不定期であるが、糖尿病症例の円滑な病診連携のため院外勉強会にも参加する。

⑤ 研修評価

1. 自己評価

到達目標を明確にし、チェックリストを用いて自己評価する。

2. 指導医による評価

回診・症例検討会におけるディスカッション、さらに退院時サマリーの記入状況を踏まえて研修到達度の総合評価を行う。

3. 看護師による評価

評価表を用いて、看護師からの評価を行う。

4. 研修内容の評価

研修を行う医師による糖尿病科への評価を評価表を用いて行い、カリキュラムの修正を行う。